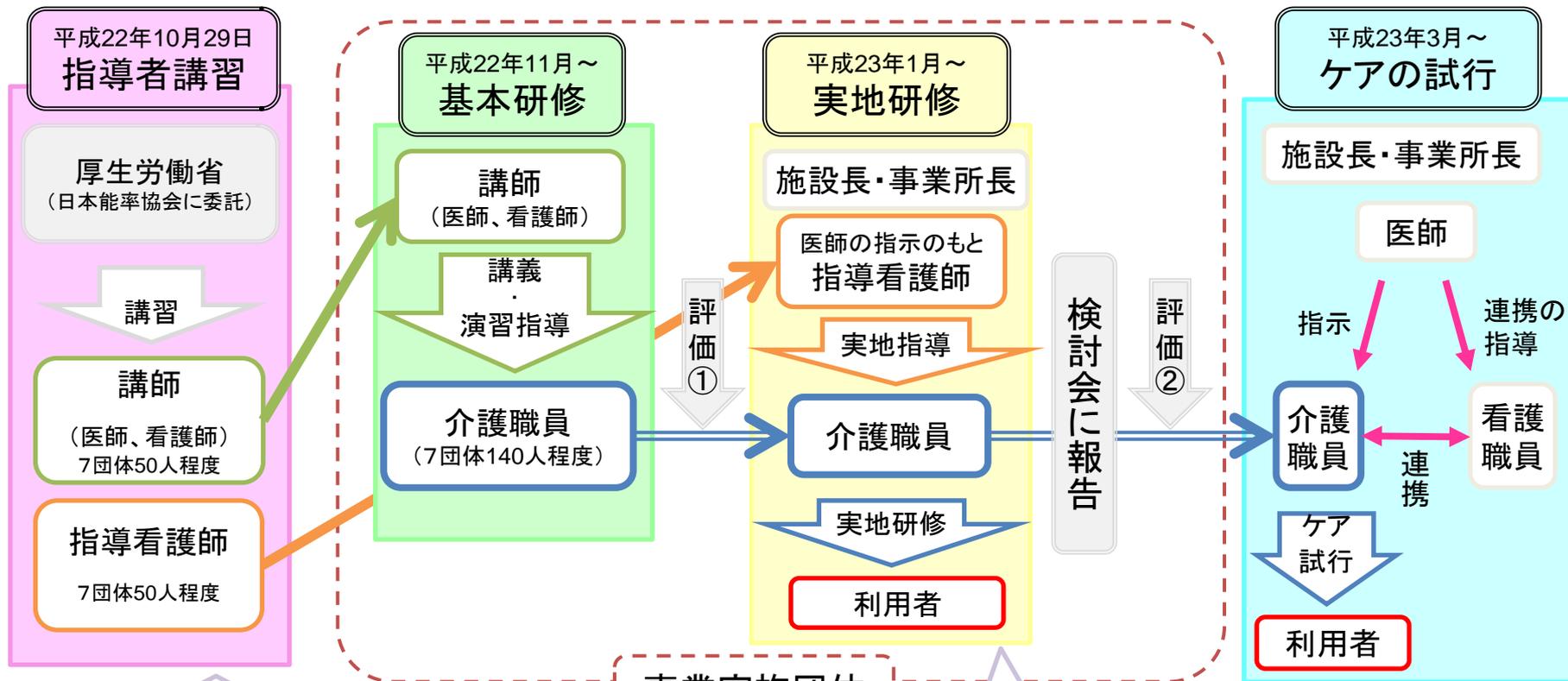


介護職員によるたんの吸引等の試行事業 (不特定多数の者対象)の概要と実施状況 (中間報告)

介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）の概要

※ 試行事業の実施にあたっては、基本的内容について検討会で御議論いただいた上で、具体的な研修の実施内容・方法等については、検討会から大島座長、内田委員、太田委員、川崎委員、川村委員、橋本委員にアドバイザーをお願いしている。



- 指導者(講師・指導看護師)は事業実施団体から推薦された者
- 指導者へ試行事業の目的・方法・内容等を説明

- 事業実施団体は以下の7団体。
 全国社会福祉協議会
 全国有料老人ホーム協会
 全国老人福祉施設協議会
 全国老人保健施設協会
 日本介護福祉士会
 日本認知症グループホーム協会
 日本訪問看護振興財団

- 実地研修は各施設・在宅事業所等において、指導看護師が介護職員1～3人程度を指導。
- 要件を満たす場合は、介護職員が勤務する自施設・在宅において実地研修を行うことも可能。

※今後、変更があり得る。

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における指導者講習について

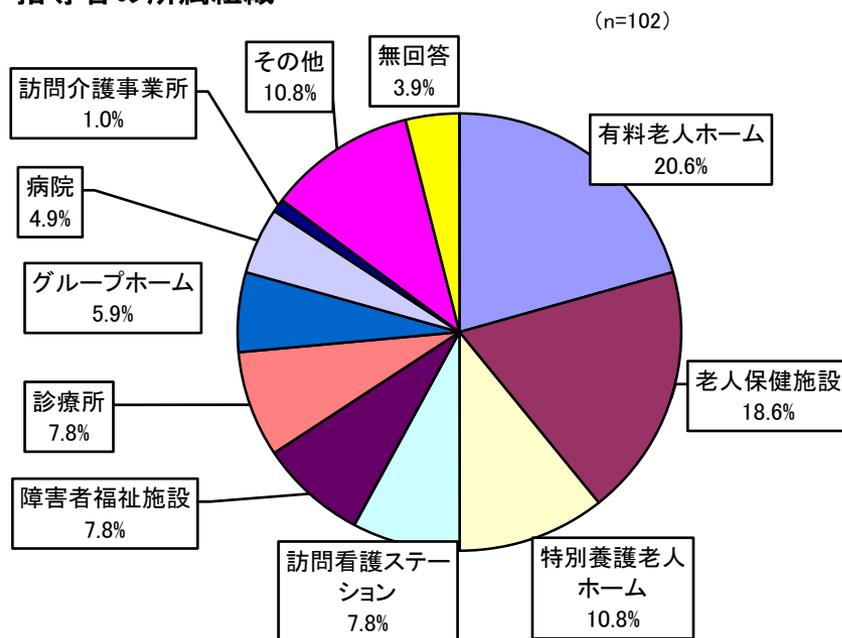
目的：介護職員の指導者に対して、「介護職員によるたんの吸引等の試行事業」の目的、内容及び方法を説明し、介護職員が安全なケアを実施できるような体制整備への理解を図る。

日時：平成22年10月29日(金)11時～17時

参加者：事業実施7団体から推薦された指導者102名(医師14名・看護師88名)

経験年数：平均23.3年(最長47年・最短4年)

指導者の所属組織



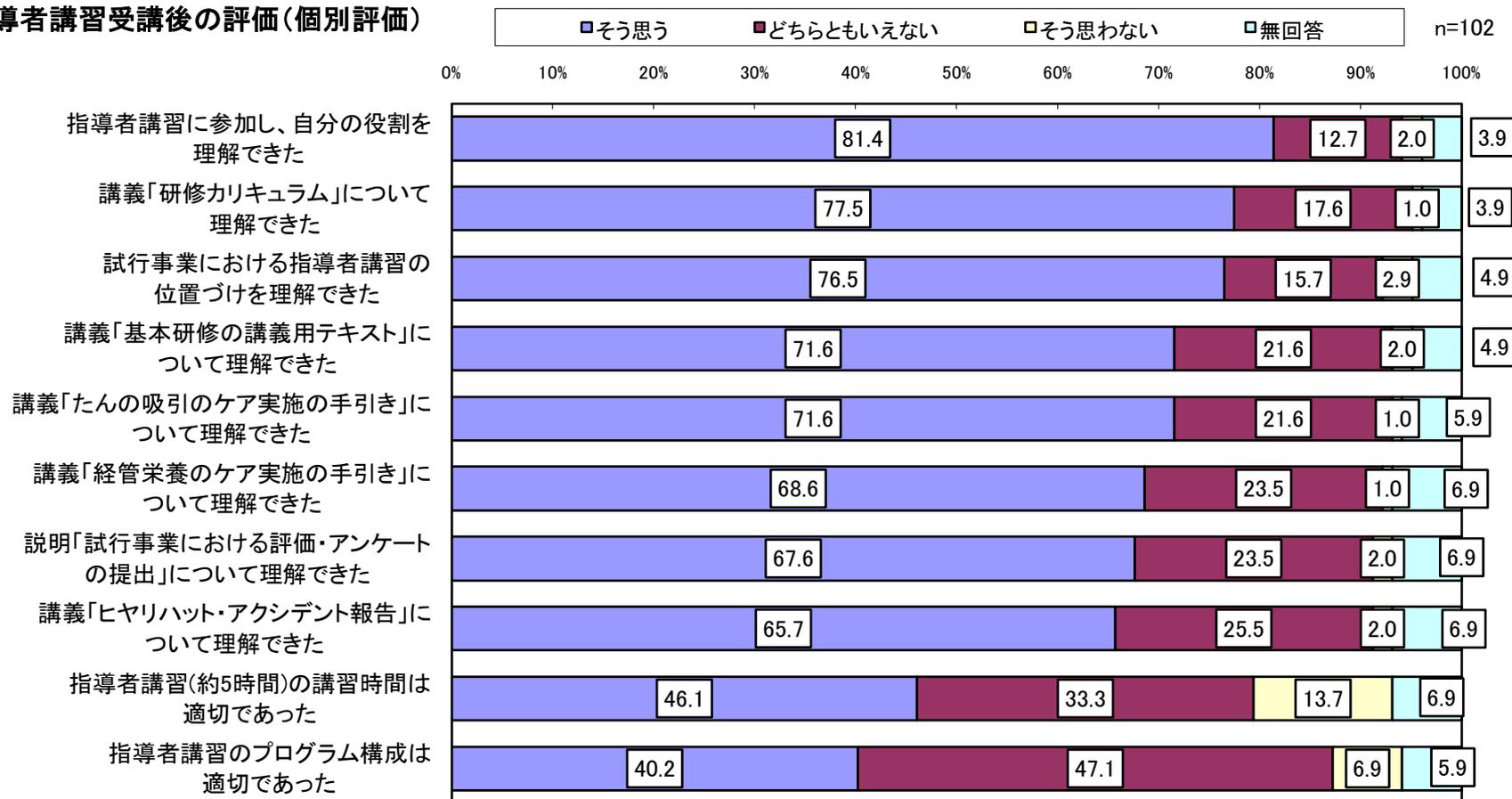
講習プログラム

講習内容	時間(分)
介護職員等によるたんの吸引等の実施のための検討会・試行事業について	60
研修カリキュラムについて	40
たんの吸引のケア実施の手引きについて	40
経管栄養のケア実施の手引きについて	40
ヒヤリハット・アクシデント報告について	20
評価票・アンケート票について	30
意見交換	30
計	260

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 指導者講習について

受講後の質問票調査では、各質問項目を理解できたについて「そう思う」が7割程度のなかで、講習時間及びプログラム構成の適切さは「そう思う」が4割程度と評価が低かった。

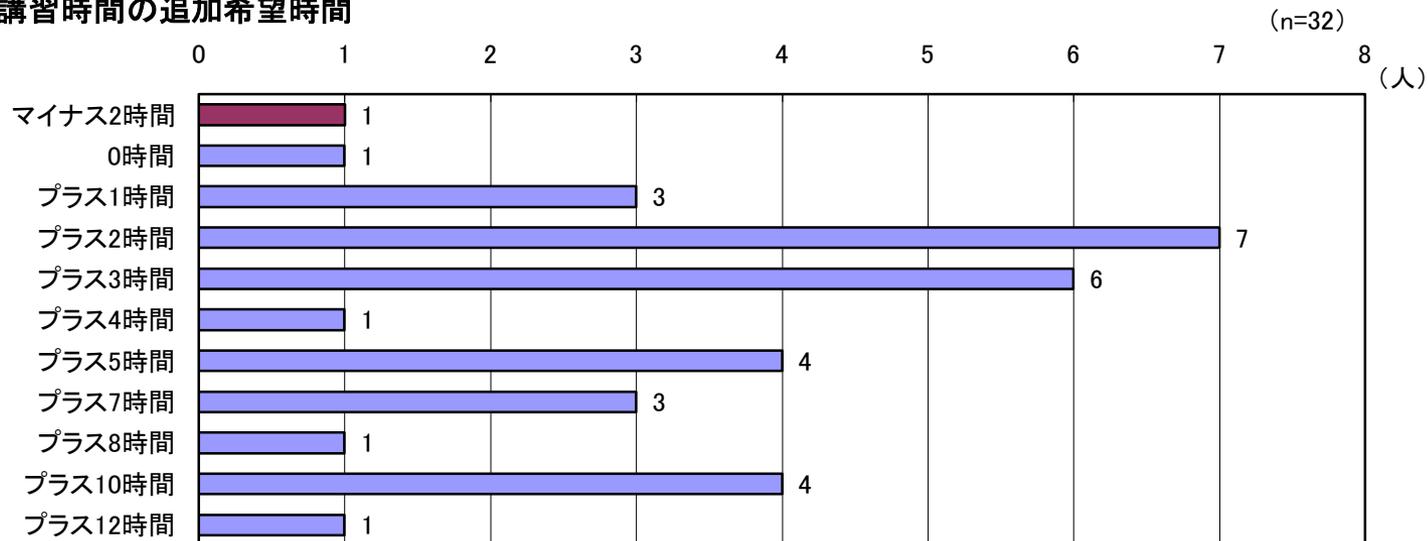
指導者講習受講後の評価(個別評価)



介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 指導者講習について

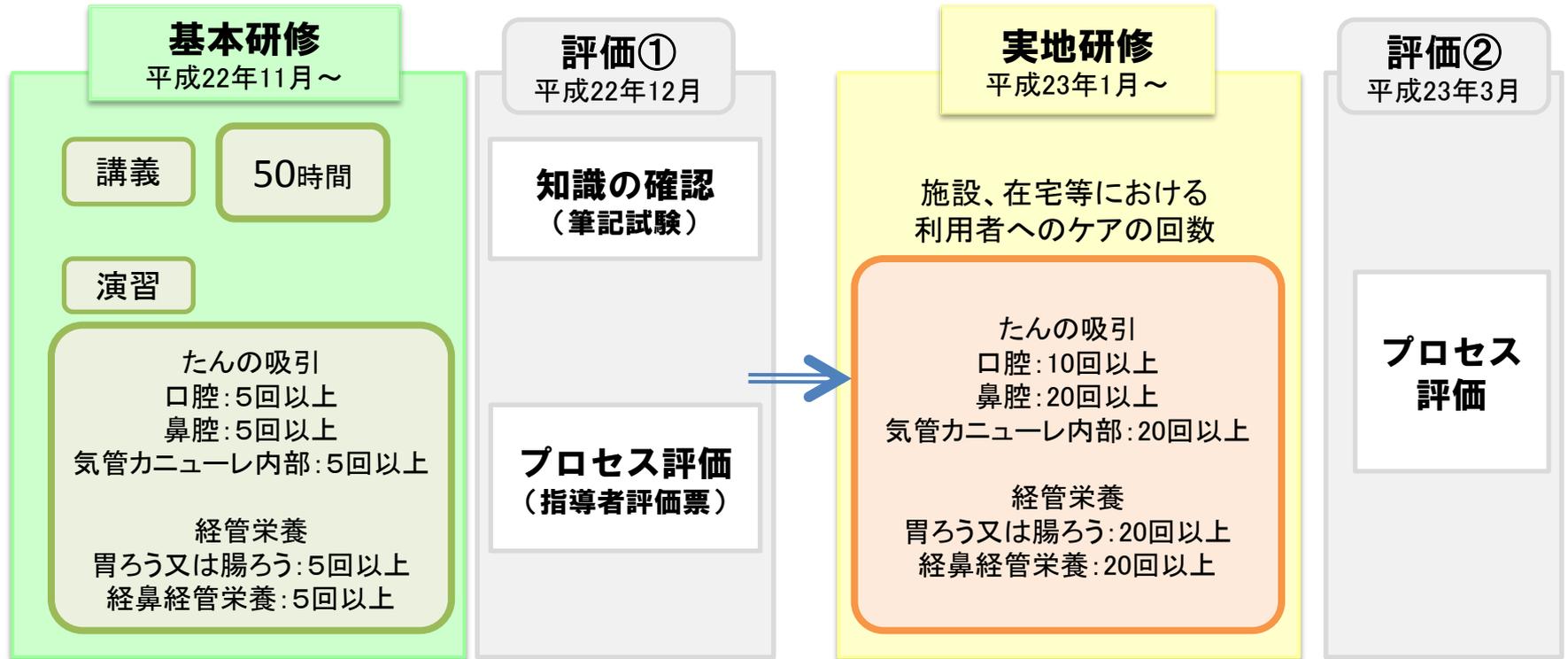
受講後の質問票調査では、「講習時間の適切さ」について「どちらともいえない」または「そう思わない」と回答した者(48名)のうち、30名が「現行(約5時間)の講習に加えて、時間追加が必要」と回答していた。

講習時間の追加希望時間



指導者講習に関する意見(自由記載)としては、「指導のポイントを、もっと具体的に、詳しく説明してほしかった」「安全性の担保について、もう少し強調して説明してもよいのではないか」「実際の物品を使用して演習指導を講習してもよかったのではないか」等の講習内容の充実を求める記載が複数あった。

介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）の 研修カリキュラムの概要



※救急蘇生法演習（1回以上）も必要。
※演習はシミュレーターが必要であるがやむを得ず模擬患者も可。

※実地研修を実施する施設・在宅等は基本要件（#）を満たすことが必要。

#実地研修を実施する際に必要とされる基本要件

- ①組織的対応を理解の上、介護職員等が実地研修を行うことについて書面による同意
- ②医師から指導看護師に対する書面による当該行為の指示
- ③指導看護師の具体的な指導
- ④患者（利用者）ごとの個別計画の作成
- ⑤マニュアルの整備
- ⑥関係者による連携体制の確保
- ⑦指示書や実施記録の作成・保管
- ⑧緊急時対応の手順、訓練の実施
- ⑨たんの吸引及び経管栄養の対象となる患者が適当数入所又は利用している
- ⑩介護職員を受け入れる場合には、介護職員数名につき指導看護師が1名以上配置
- ⑪介護職員を指導する指導看護師は臨床等での実務経験を3年以上有し、指導者講習を受講している

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 基本研修について

参加者(介護職員)の約9割が介護福祉士の資格を保有している(現職は約8割)

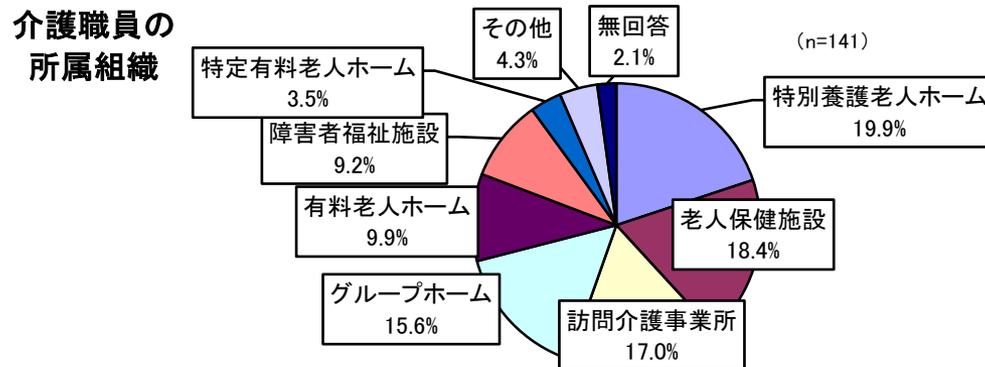
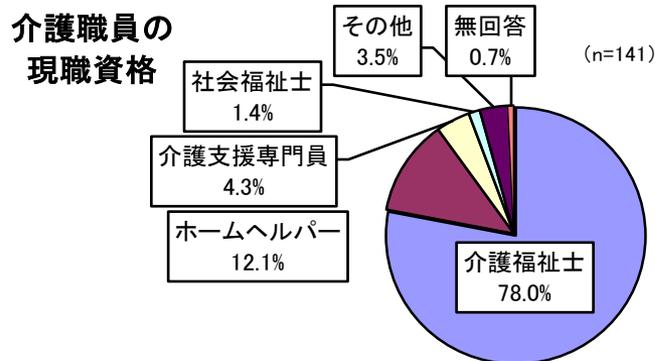
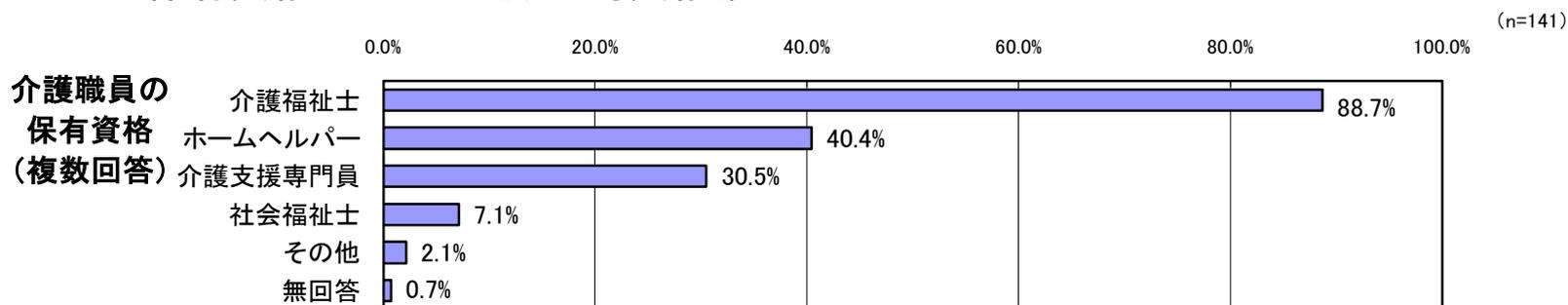
日時：平成22年11月5日～12月15日(事業実施7団体ごとに全国9ヶ所で実施)

参加者：事業実施7団体から推薦された介護職員141名

年齢：平均38.8歳(最大58歳・最小24歳)

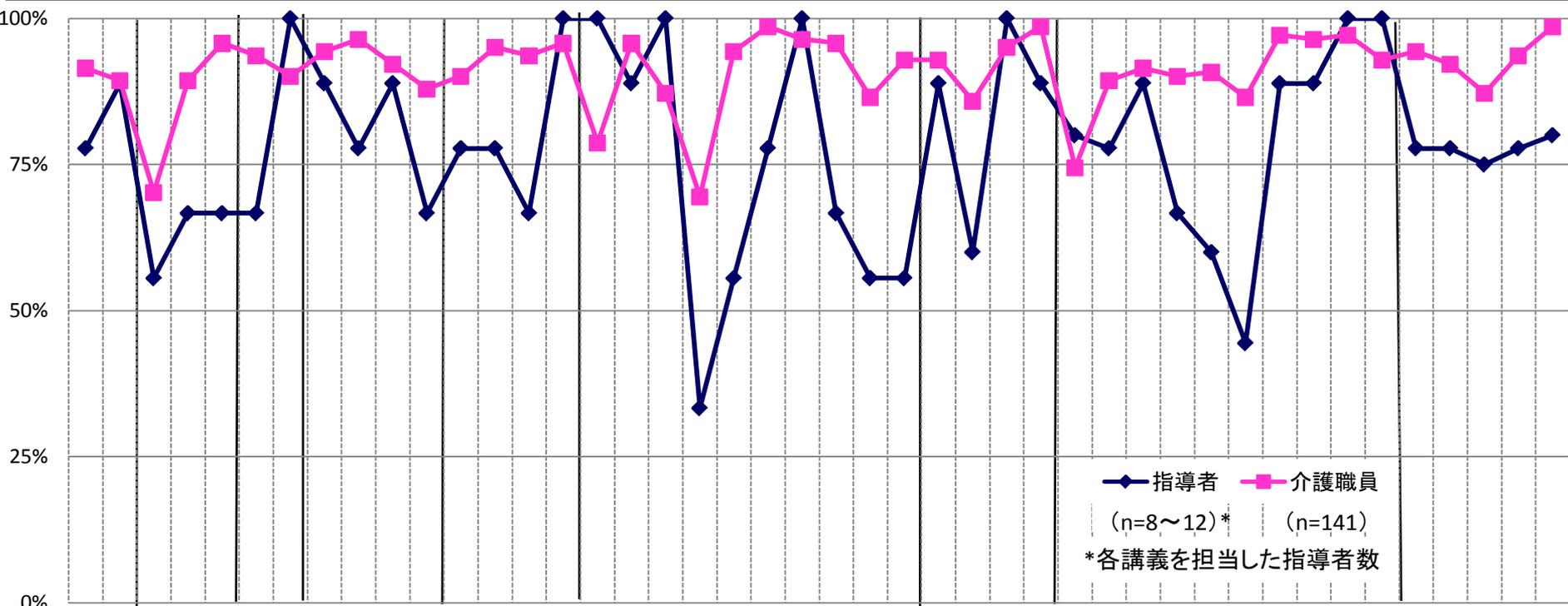
性別：男性42名(29.8%)・女性99名(70.2%)

保有資格：1人当たり平均資格数1.7



講義の理解度について:「介護職員が理解できる内容か」の回答比率

- 指導者からみた「介護職員が理解できる」に比べ、介護職員が「理解できた」と回答した割合のほうが高い
- 指導者では、「保健医療に関する制度」、「人工呼吸器と吸引」、「成人と小児の吸引の違い」、「たんの吸引の生じる危険、事後の安全確認」、「たんの吸引の急変事故発生時の対応と事前対策」、「成人と小児の経管栄養の違い」で、「介護職員が理解できる」と回答した割合が低い
- 介護職員では、「保健医療に関する制度」、「呼吸のしくみとはたらき」、「人工呼吸器と吸引」、「消化器系のしくみとはたらき」で「理解できた」と回答した割合が低い

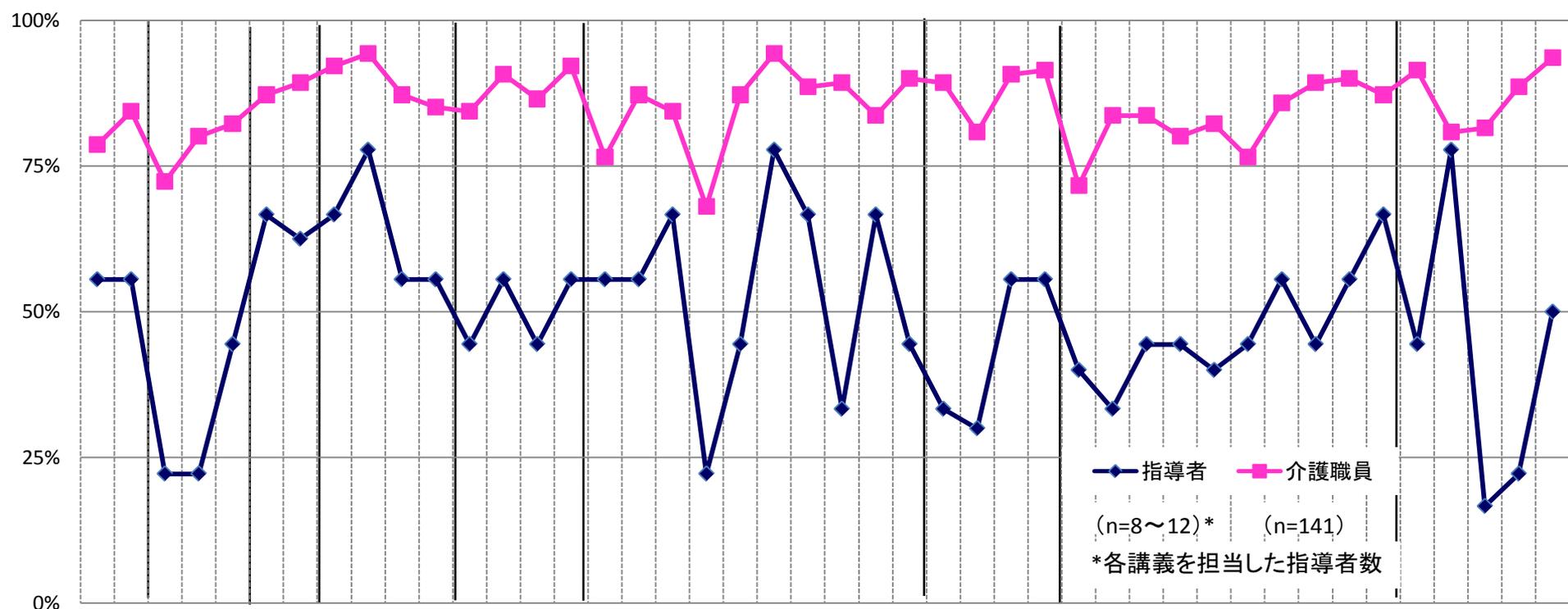


◆ 指導者 (n=8~12)*
 ■ 介護職員 (n=141)
 *各講義を担当した指導者数

報告及び記録
 経管栄養に必要なケア
 経管栄養の技術と留意点
 器具・器材のしくみ、清潔の保持
 急変・事故発生時の対応と事前対策
 生じる危険、注入後の安全確認
 事前説明と同意、事後の確認
 利用者や家族の気持ちと対応
 経管栄養に関する感染と予防
 成人と小児の経管栄養の違い
 経管栄養実施上の留意点
 注入する内容に関する知識
 経管栄養法とは
 消化・吸収と消化器の症状
 「経管栄養」消化器系のしくみとはたらき
 報告及び記録
 たんに伴うケア
 吸引の技術と留意点
 器具・器材のしくみ、清潔の保持
 急変・事故発生時の対応と事前対策
 生じる危険、事後の安全確認
 呼吸器系の感染と予防
 事前説明と同意、事後の確認
 利用者や家族の気持ちと対応
 成人と小児の吸引の違い
 人工呼吸器と吸引
 吸引とは
 いつもと違う呼吸状態
 「たんの吸引」呼吸のしくみとはたらき
 急変状態について
 体温上昇について
 健康状態を知る項目
 身体・精神の健康
 減菌と消毒
 療養環境の清潔、消毒法
 職員の感染予防
 感染予防
 救急蘇生法
 たんの吸引や経管栄養の安全な実施
 チーム医療と介護職との連携
 医行為に関する法律
 保健医療に関する制度
 医療の倫理
 個人の尊厳と自立

テキストの分かりやすさについて:「介護職員が分かりやすい記述か」の回答比率

- 指導者からみた「介護職員にとってわかりやすい」に比べ、介護職員の「わかりやすい」と回答した割合のほうが高い
- 指導者では、「保健医療に関する制度」、「医行為に関係する法律」、「人工呼吸器と吸引」、「経管栄養の技術と留意点」で、「わかりやすい」と回答した割合が低い
- 介護職員では、「保健医療に関する制度」、「呼吸のしくみとはたらき」、「人工呼吸器と吸引」、「消化器系のしくみとはたらき」、「成人と小児の経管栄養の違い」で「わかりやすい」と回答した割合が低い



◆ 指導者 (n=8~12)*
■ 介護職員 (n=141)
 *各講義を担当した指導者数

講義時間の適切性について①

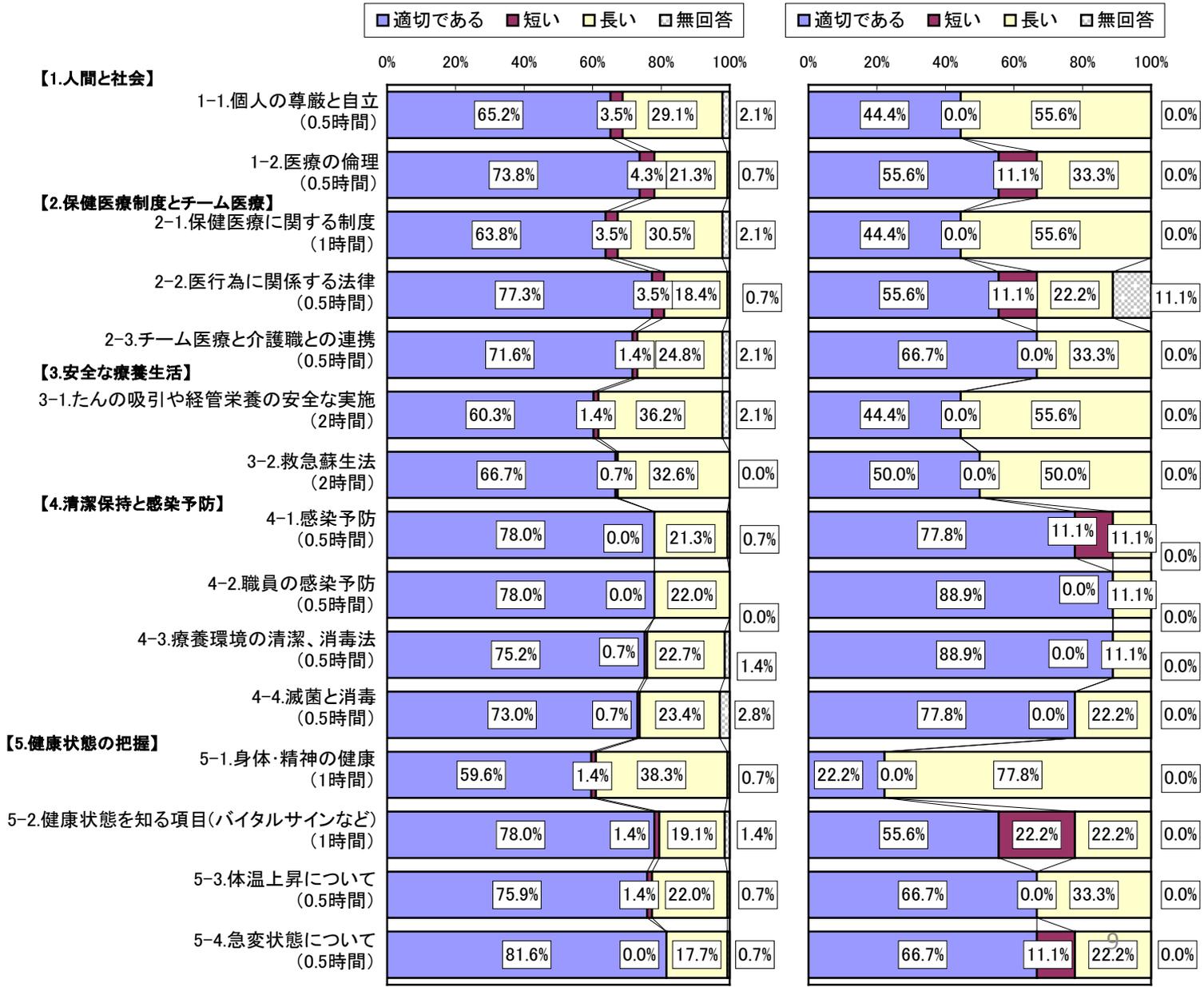
介護職員 (N=141)

指導者 (N=8~12)*

*各講義を担当した指導者数

○介護職員では、
 ・「適切である」が6割を超えた項目が約8割であった。
 ・「長い」と回答した割合が高い項目は、6-7「たんの吸引 事前説明(声かけ)と同意、事後の確認」、8-6「成人と小児の経管栄養の違い」、8-9「経管栄養 事前説明(声かけ)と同意、事後の確認」などであった。
 ・「短い」と回答があった項目は、6-4「人工呼吸器と吸引」、8-1「消化器系のしくみとはたらき」などであった。

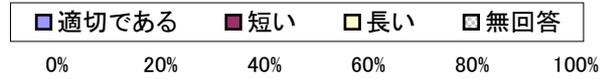
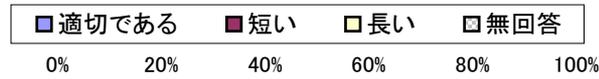
○指導者では、
 ・項目ごとの評価にばらつきがあった。
 ・「長い」と回答した割合が高い項目は、5-1「身体・精神の健康」、6-5「成人と小児の吸引の違い」などであった。
 ・「短い」と回答した割合が高い項目は、6-4「人工呼吸器と吸引」であった。



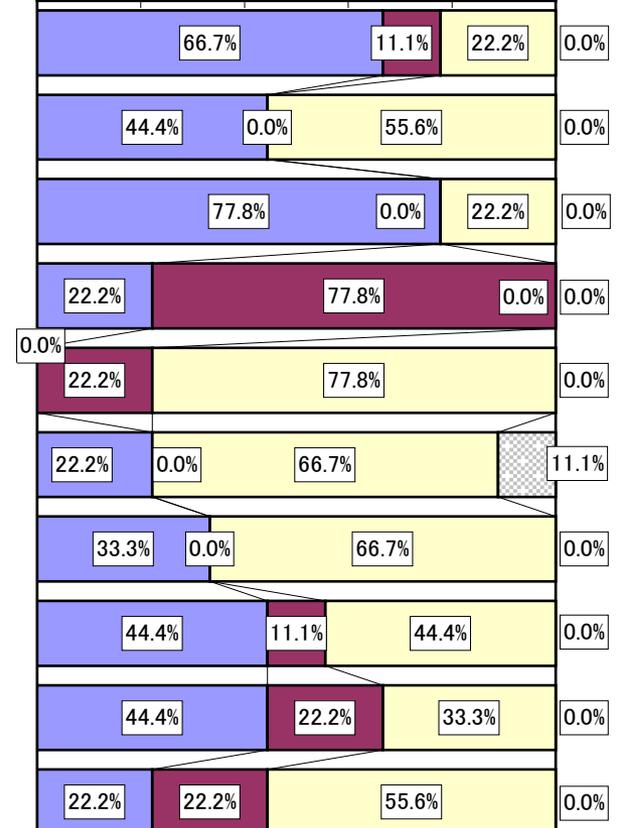
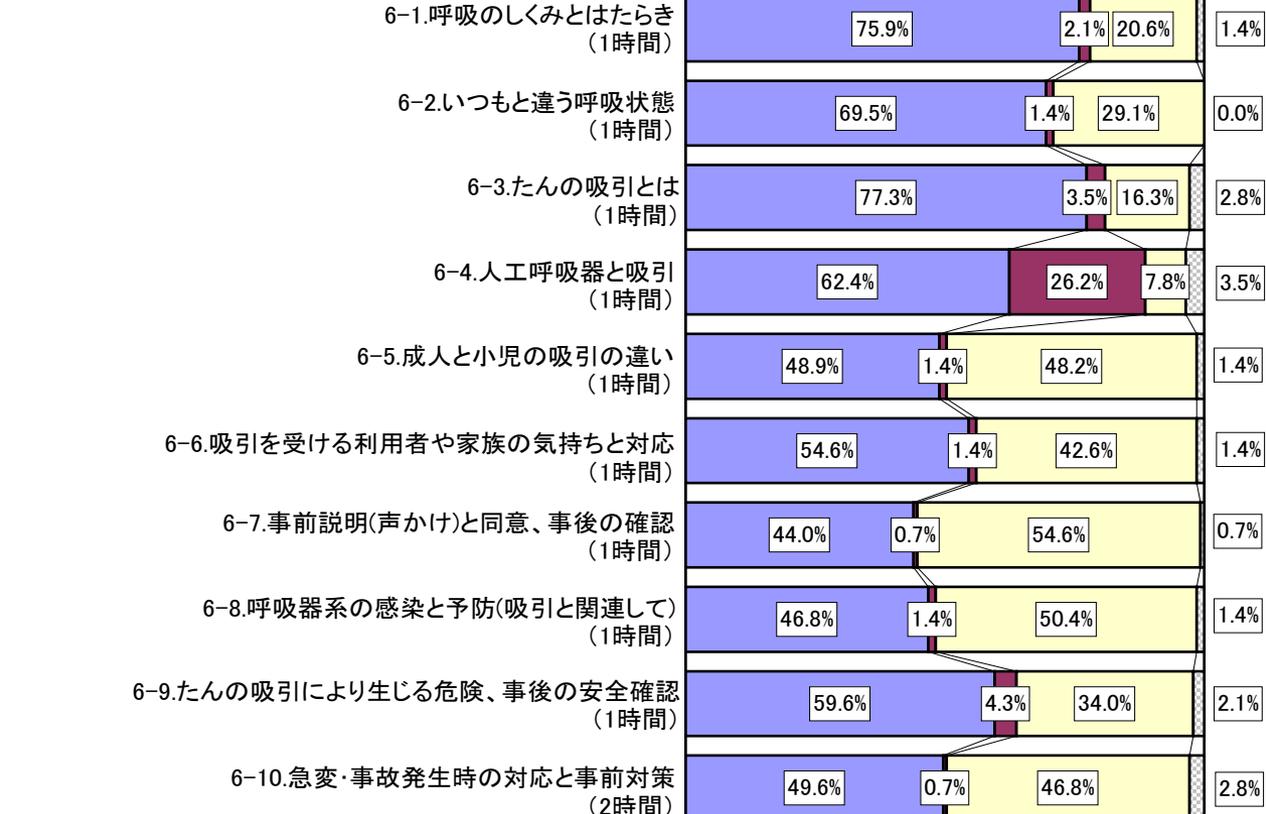
講義時間の適切性について②

介護職員 (N=141)

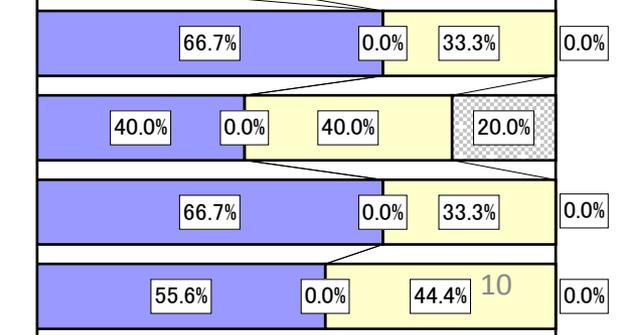
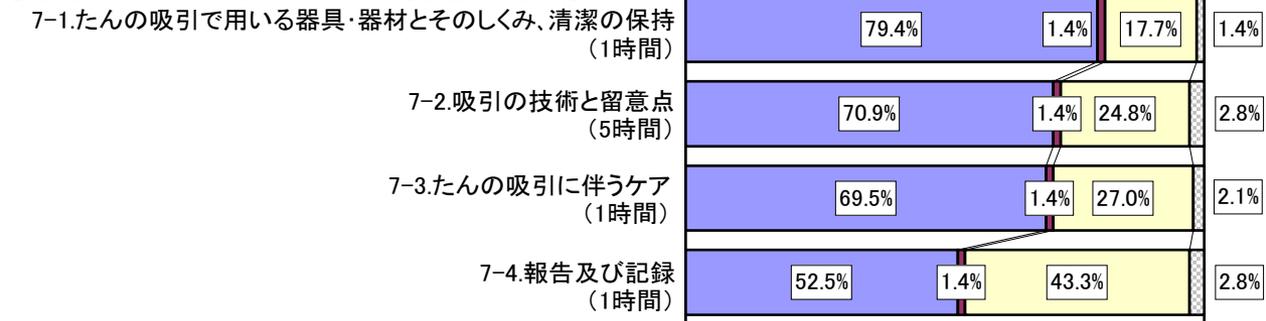
指導者 (N=8~12)*
*各講義を担当した指導者数



【6.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」(概論)】



【7.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」(実施手順解説)】



講義時間の適切性について③

介護職員 (N=141)

指導者 (N=8~12)*

*各講義を担当した指導者数

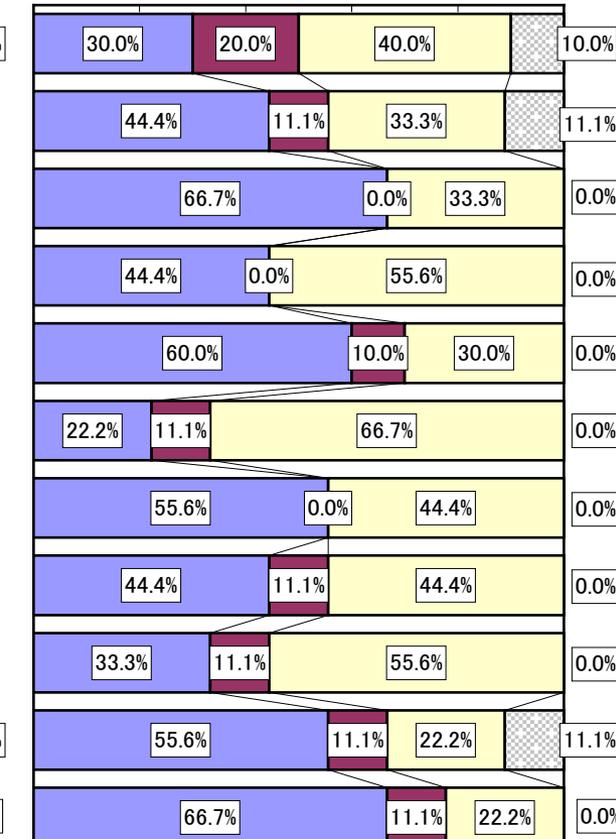
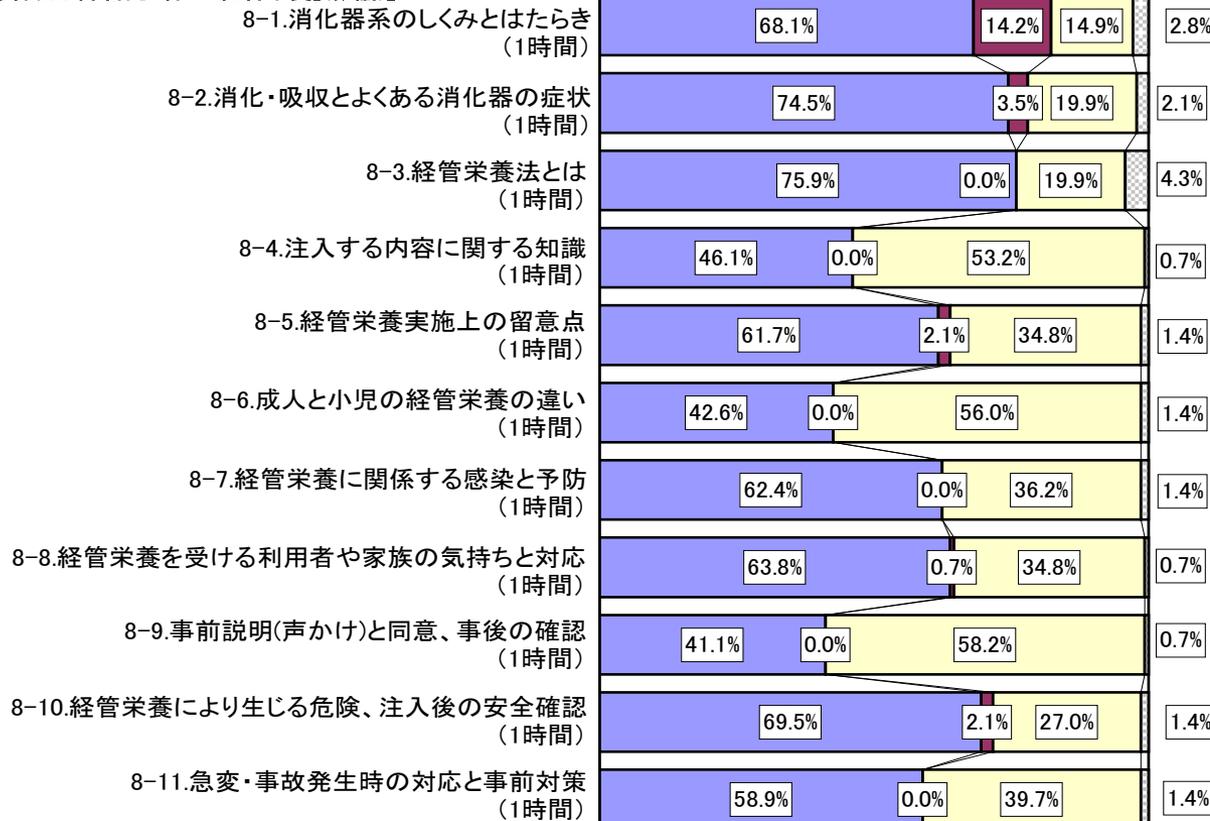
■適切である ■短い □長い □無回答

■適切である ■短い □長い □無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【8.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(概論)】



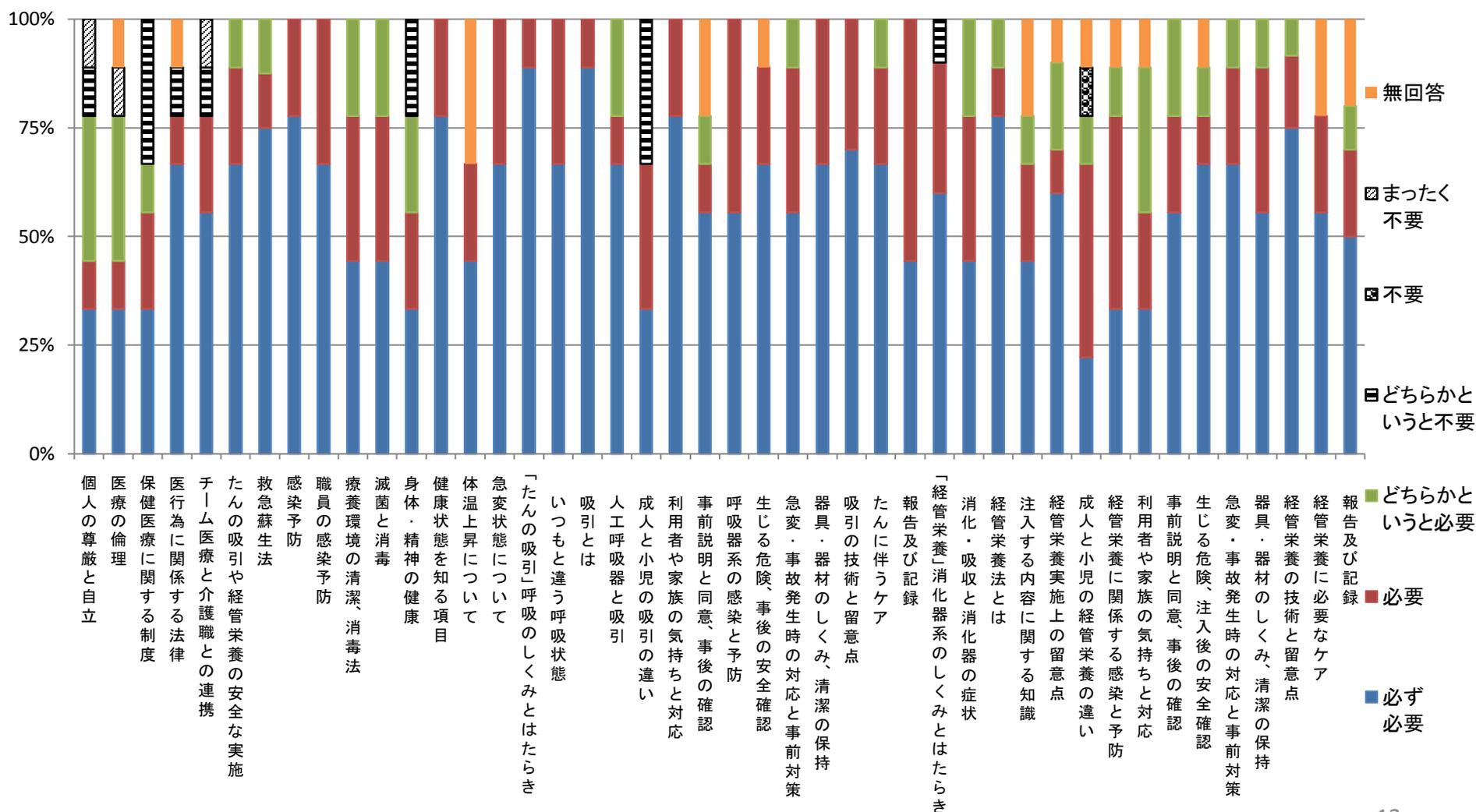
【9.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(実施手順解説)】



指導者からみた講義の必要性

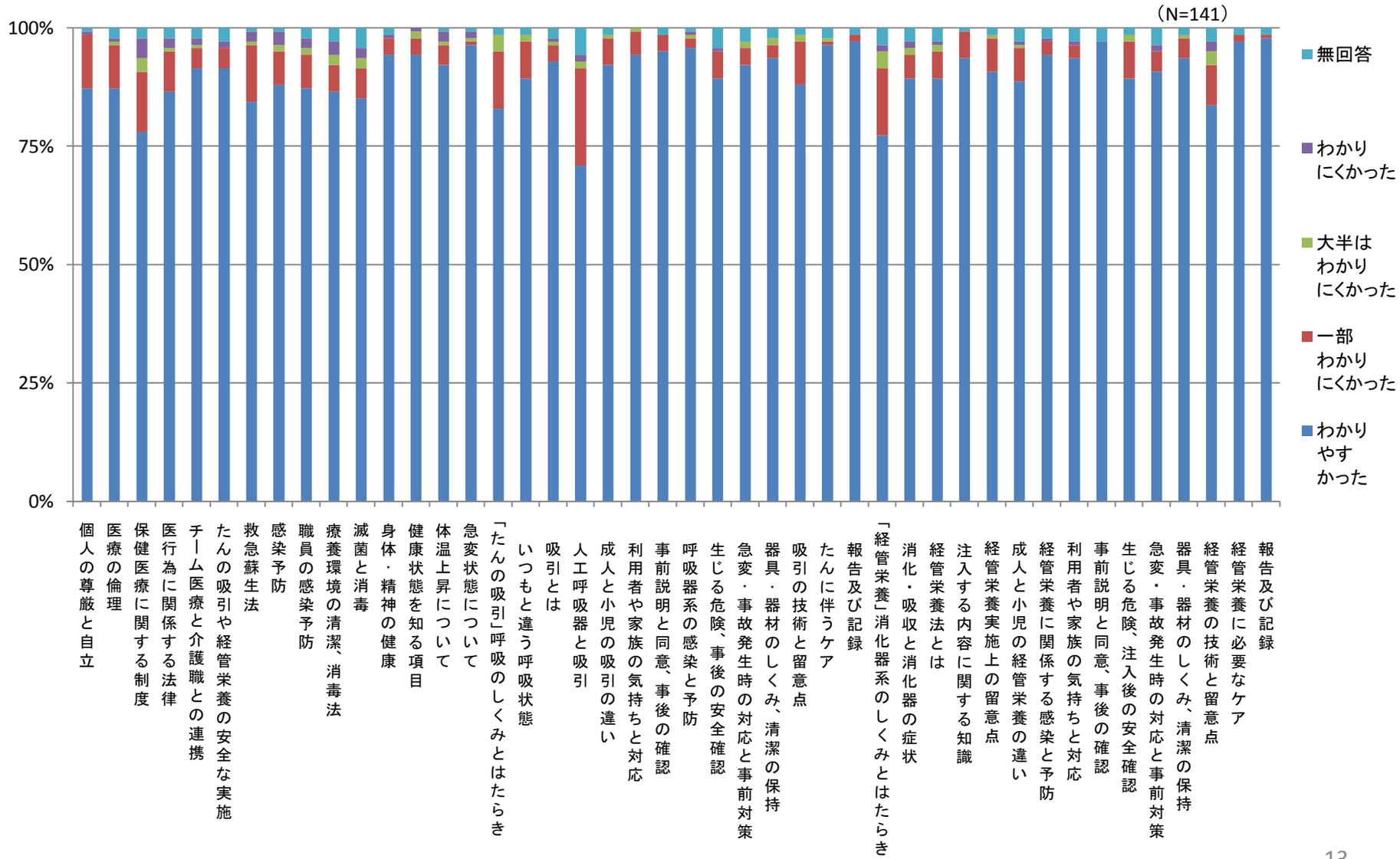
○ 「個人の尊厳と自立」、「医療の倫理」、「保健医療に関する制度」などの項目で、「どちらかというと不要」、「まったく不要」があった。
 ○ 「成人と小児の吸引の違い」では、他の項目と比べ「どちらかというと不要」が多かった。

(N=8~12)* *各講義を担当した指導者数



介護職員からみた指導者の講義の評価について

○ 他の項目とくらべ、「保健医療に関する制度」、「人工呼吸器と吸引」、「消化器系のしくみとはたらき」の項目で、「一部わかりにくかった」の割合が高かった。

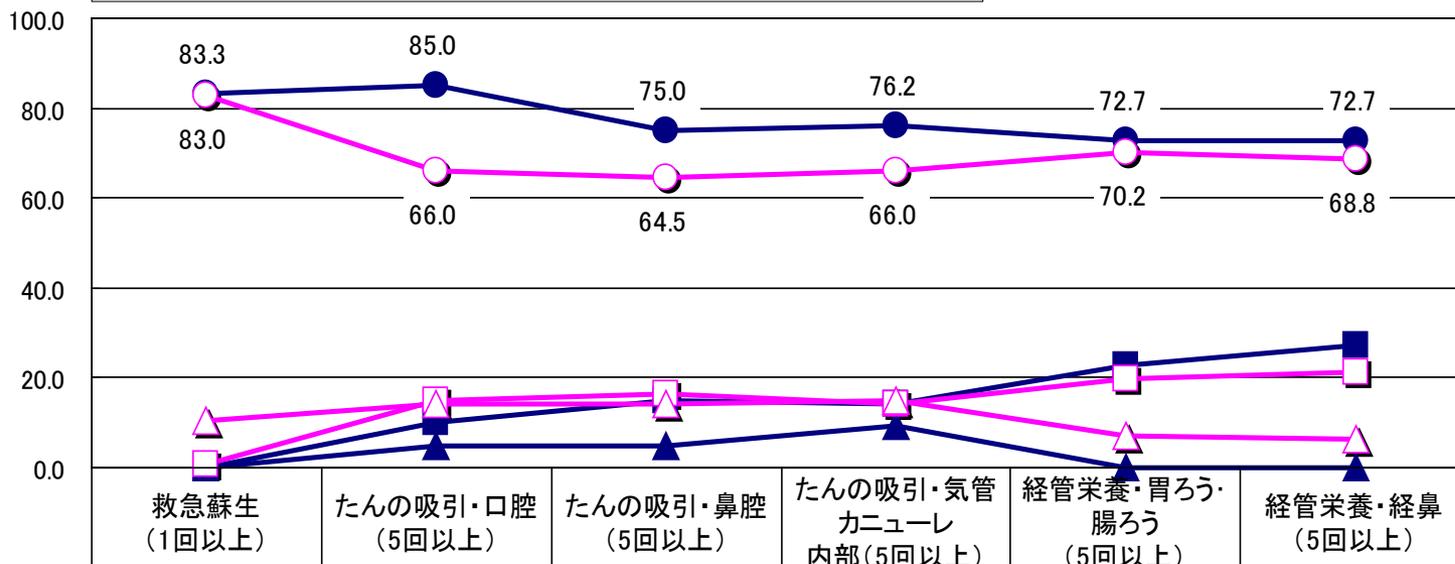


介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 基本研修について

演習のケアごとの所定回数について「適切」と回答した者が、指導者は7割以上・介護職員は6割以上であった。

演習所定回数の適切さ

● 適切(指導者) ■ 多い(指導者) ▲ 少ない(指導者) (指導者N=6~22)*各演習を担当した指導者数
○ 適切(介護職員) □ 多い(介護職員) △ 少ない(介護職員) (介護職員N=141)



● 適切(指導者)	83.3	85.0	75.0	76.2	72.7	72.7
■ 多い(指導者)	0.0	10.0	15.0	14.3	22.7	27.3
▲ 少ない(指導者)	0.0	5.0	5.0	9.5	0.0	0.0
○ 適切(介護職員)	83.0	66.0	64.5	66.0	70.2	68.8
□ 多い(介護職員)	0.7	14.9	16.3	14.2	19.9	21.3
△ 少ない(介護職員)	10.6	14.2	14.2	14.9	7.1	6.4

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における評価①について

- ・評価①として、基本研修(50時間講義及びシミュレーター演習)における評価を行う。
- ・具体的な評価内容として、知識の確認(筆記試験)及び演習の指導者評価(プロセス評価票)をもとに、介護職員の知識と技術の習得状況を確認した。

知識の確認(筆記試験)

- 《基本方針》 介護職員が、利用者の心身の状態を正確に観察し、医師に報告し、その指示に基づいて、看護職員と連携しながら、たんの吸引及び経管栄養を安全、安楽かつ効果的に実施できる能力が評価されること
- 《出題形式》 客観式問題(四肢択一)
- 《出題数》 50問
- 《試験時間》 90分

指導者評価(プロセス評価票)

- 《基本方針》 介護職員が、たんの吸引及び経管栄養について、シミュレーターを用いて、効果的に演習でき、習得した技術が適正に評価されること
- 《評価方法》 介護職員が、吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部)、経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)のケアごとにシミュレーターでの演習を実施し、指導者がケアの実施の手引きに基づくプロセス評価票を用いて評価する

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 評価①について

知識の確認(筆記試験)結果では、全体的な正答率は高かったものの、「保健医療に関する制度」「清潔保持と感染予防」「消化器系のしくみとはたらき」といった出題範囲の正答率が低かったことから、介護職員の日常業務において意識することが少ない分野について、さらに重点的な学習が必要と考えられる

知識の確認(筆記試験)結果

- ・受験者 : 介護職員141名
- ・正答率 : 平均値96.1% (最高値:100% 最低値:78%)
- ・正答率90%以下の出題範囲について、下記に抜粋

出題範囲	平均正答率
保健医療に関する制度	70.9%
清潔保持と感染予防(滅菌と消毒)	70.9%
消化器系のしくみとはたらき	82.3%
経管栄養(胃ろう部)に必要なケア	83.7%
口腔内のたんの吸引の技術と留意点(状態観察)	87.9%
経管栄養の注入する内容に関する知識	87.9%

評価①結果については、評価委員会(太田秀樹委員長)において審査後、知識の確認(筆記試験)の成績下位者は個別に再学習し、指導者からの口頭試問後に実地研修へと進出した。

介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）における 評価①について

- ・指導者評価（プロセス評価票）結果では、介護職員が手順通り実施できるようになるまでの演習回数に幅があることから、その実施には個人差が大きいと考えられる。
- ・ケアごとの手順通り実施できるまでの演習回数の相違については、その行為の難易度よりも演習の方法や順序によるものが影響していると考えられる。

指導者評価（プロセス評価）結果

ケアの内容	たんの吸引			経管栄養（流動食）	
	口腔内 <small>（うち口鼻マスクまたは 鼻マスク装着者）</small>	鼻腔内 <small>（うち口鼻マスクまたは 鼻マスク装着者）</small>	気管カニューレ 内部 <small>（うち人工呼吸器装着者）</small>	胃ろう・腸ろう <small>（うち半固形）</small>	経鼻
実施団体数	7 (2)	7 (1)	7 (3)	7 (1)	7
介護職員数	141 (26)	141 (7)	141 (42)	140 (6)	140
初回手順回数	7 (4)	5 (4)	6 (6)	6 (2)	7
実施演習回数	11 (5)	7 (5)	8 (7)	8 (5)	7

※ 初回手順回数とは、指導者評価（プロセス評価票）の各評価項目が「初めて」全て「手順通り実施」となった最大回数のこと

※ 実施演習回数とは、指導者評価（プロセス評価票）が実施された演習回数の最大回数のこと

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 実地研修について (進行中)

ケアごとの実施率については、気管カニューレ内部のたんの吸引(未着手59.6%)及び経鼻経管栄養(未着手42.2%)が他ケアと比較して低率で進行している。

日時：平成23年1月から2月末日目途 (進行中)

参加者：基本研修を修了し、評価①で審査された介護職員141名

内容：介護職員が医師の指示のもとで、ケア対象者へ、指導看護師の指導を受けながら、
たんの吸引及び経管栄養を実施

